

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191300146		
法人名	社会福祉法人千悠会		
事業所名	グループホームこころ小城		
所在地	佐賀県小城市小城町晴気2370-4		
自己評価作成日	令和 5年 4月 20日	評価結果市町村受理日	令和5年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 5年 5月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐賀を代表する天山の麓にあり、大自然に囲まれて「家庭的な雰囲気」のなかで、経験豊かな職員が真心を持って介護させて頂き、ご利用者様お一人お一人に「安心・笑顔・穏やかな時間」を送って頂く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天山の麓にある自然に囲まれたホームで、四季を感じることができる。コロナ禍で制限があり、以前開催していたような地域住民を交えた行事を行うことはできていないが、家族や馴染みの人との関係が途切れぬように面会を継続されている。「安心・笑顔・穏やかな時間」と理念に掲げられているように、入居者は調理や洗濯等を一緒に行ったりとできることを行い、自宅のように居心地よく過ごすことができている。経験豊富な職員も多く、職員間のコミュニケーションも良く取れており、入居者が安心して生活できるよう支援がなされているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目に付く事務所や玄関に提示し、ミーティング等でも理念に基づいた支援を確認しながら行っている。	玄関や事務所に理念が掲げられており、「安心・笑顔・穏やかな時間」という理念も、職員が意識し、入居者一人ひとりにあった日頃のケアにつながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症が徐々に緩和し、近所の散歩やドライブを行っている。散歩の際に近所の方から野菜をもらったりし交流に繋がっている。	入居者と一緒に回覧板を回しにいたり、散歩に行った際に野菜をいただき、その野菜をホームでの食事に活用するなど地域との交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの相談や問い合わせに対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内だけでの運営推進会議を年6回行っている。コロナウイルスの為地域包括や地域の方との会議は行えていない。書類作成し区長、民生員、他グループホーム、地域包括へ書面を提出し返答を頂いている。	コロナ禍のため、書面で開催されている。作成した書類は会議メンバーへ配布し、意見を聴取するようにしている。また、今後は対面での開催を予定しており、家族にも参加してもらうこととなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターへの運営推進会議議事録を提出し、その際取り組みを伝え、協力関係を築いている。	市とのやりとりは、担当者を決めており、運営推進会議の報告を行ったり、相談があれば連絡を取り合うなど、情報交換及び共有ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を設置し年に4回検討を行っている。その結果について職員に周知徹底を図っている。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、どのようなケアが身体拘束にあたるのか共通認識をもつように取り組んでいる。また、身体拘束適正化委員会での検討の他、年間研修の中にも身体拘束を行わないようなケアについての研修を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回虐待についての勉強会を行い再確認し、常に意識しながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で学んだ事を職員間で共有している。必要性がある方に活用して頂けるよう関係者と連携を取り、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の該当箇所を示しながら口頭で十分な説明をし同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には気軽に話をしてもらえような雰囲気づくりを行っている。相談や意見についてはミーティングにて検討し運営に反映している。	面会の時に直接家族から意向を聞き、面会に来るのが難しい家族には電話にて意向の確認を行っている。また、聞き取った相談や意見は、その都度ミーティングにて検討をし、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中で随時検討を行い反映している。	職員間でよくコミュニケーションが取れており、意見を言いやすい雰囲気である。管理者は職員からの意見をミーティングや日々の業務中で聞くように心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を設け、各自が向上心を持って働けるようにしている。又、処遇改善費を有効活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修で学んだ事を職員間で共有している。外部研修へ行った際は外部研修に行った職員が研修資料に基づいて施設内研修の司会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	訪問診療や薬剤師訪問時に相談や質問をして回答を得る事で職員間で周知しサービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いを傾聴するだけでなく、表情や仕草からも汲み取り寄り添う事で安心して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の思いを受容し、細目に連絡を取り合い信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要なサービスを見極め、自施設での対応が困難な場合には、本人、家族の理解を得た上で他のサービスを含めた対応が出来るよう務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来る力」を理解した上で、その力に応じた作業を談話しながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡を定期的に行い状況報告し、必要があれば相談や確認をその都度行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症予防の為面会自体は減っているが、感染対策をして頂き短時間で居室にて面会を行っている。	コロナ禍ではあるが、家族や知人等との面会は継続されている。また、外出の際に馴染みの場所を訪問したり、法事への参加を行ったりと馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の意思や相性を日頃から観察し把握し、ミーティングやその日の出勤者で話し合いリビング席の配置移動を行っている。職員が間には入り良好な関係が築けるよう橋渡しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後家族より連絡があった際はその都度相談や支援等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で情報の共有を行い本人や家族の希望、意向に添えるよう努めている。	入居者から直接聞き取ったり、聞き取りが難しい場合は、表情などから読み取るなど意向の把握に努めている。また、ケアプラン作成時のアセスメント用紙を使い、意向を整理したり、日頃の記録から把握し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から以前の暮らしを聞いたり、サービス利用については当時の担当者から情報提供をして頂き、十分なアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、心身の状態を観察して。個々の有する力に視点を置き、職員間で常に共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医から聞き取りし意向を基に十分に話し合い、計画を作成しミーティングにて現状確認を行っている。	入居者の残存機能に目を向け、生活に根差した介護計画の作成に取り組んでいる。また、入居者の日頃の様子を家族に書面や写真で伝え、介護計画に家族の意向も反映できるように工夫がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をパソコンに入力し、状態に応じて職員間での話し合いを行い計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向や現状を家族と相談し、適切な支援が行えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に応じて桜や紅葉を見に行くなど地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に説明、同意を得て施設の協力医療機関を利用して頂いている。希望や必要に応じて、他の医療機関へ柔軟に対応している。受診前後には、家族へ状態、結果等の報告を行っている。	協力医療機関と入居前のかかりつけ医を選択することができる。専門医の受診の際はホームで対応し、適切な医療が受けられるよう支援されている。また、家族へは電話にてこまめに報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師や訪問看護師に相談や状態報告を定期的に行っている。緊急時には連絡を行い早急に対応出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけ早期に退院できるように、こまめに病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針及び看取りに関する指針についての同意書を取っている。希望の際にはどのようなケアを望まれ、何ができるか確認し職員間で共有している。かかりつけ医や訪問看護と連携し強化を図っている。	契約時に看取りについての説明を行い、希望を確認している。重度化した場合は、かかりつけ医と家族、ホームにて、看取りに関して話し合う機会が設けられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等を備え、定期的に勉強会を行う事で再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、避難訓練を実施している。緊急時の連絡票に職員だけでなく地域の方も登録している。	夜間専門職員も訓練に参加している。自治体の避難場所も把握しているが、設備が整った同法人内の有料老人ホームへの避難も想定し検討中である。地域の区長や民生委員、消防団への声かけは行っているが、訓練への参加までには至っていない。	災害時に、地域との協力体制が築けるように、地域の方の訓練への参加に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには職員と契約書を取り交わしている。人格を尊重した言葉かけを行い、プライバシーに配慮した環境を整えている。	個人情報情報は外部から見えないところに保管されている。羞恥心に配慮した行動を心がけ、職員同士で言葉かけや対応を注意し合える関係性ができている。また、管理者が中心となり、プライバシーの配慮に関する研修も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを多くとり、その時の思いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースや体調に合わせて、確認を取りながら過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を本人自ら選んで着て頂き、ご自身で出来ない場合は言葉かけし選んで頂いている。白髪染めを希望される方は職員が行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話で好みを聴き行事食や普段の食事に取り入れている。利用者と職員と一緒に会話をしながら準備や食事の片付けを行っている。	コロナ禍のため外食の機会を設けることができなかったが、テイクアウトを行い食事を楽しむ支援がなされている。献立は入居者へ希望を聞き、職員が考えるが、野菜切り等入居者ができることは行われている。また、個々の嚥下状態に合わせた対応も可能である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態に応じて量や形態に配慮して提供している。チェック表に記録し必要時は医師への報告し指示を仰ぎ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員見守りや一部介助、全介助のもと口腔ケアを行っている。希望者は歯科往診にて口腔内清掃、治療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや訴え時にトイレ誘導、オムツ交換を行っている。訴えの無い方でも時間や本人の仕草、表情で察し支援を行っている。	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターン等を確認されている。トイレ誘導の順番や時間帯による声掛け等、個々に応じた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事や水分補給を心掛けている。個別でココアを水分に取り入れたいしている。毎日レクリエーションやボール体操で運動を行い、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが希望や状況に応じて、設定日以外でも対応している。入浴剤をいれたり安らいで頂く工夫をしている。	希望に応じて、一人週3回は入浴できる環境が整っている。入浴は羞恥心に配慮しながら、昔の話をするなど、ゆっくり入浴を楽しむことができる時間となっている。また、入浴剤の他にも、ゆず湯など季節を感じるような工夫もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて自由に休憩をとって頂いている。休まっている時も、時折様子観察を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情はその都度個人ファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。薬の効能や副作用も理解し状態観察を行っている。変化あれば主治医に報告し指示を仰ぎ対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	クロスワードや字の練習、塗り絵、新聞読み等時間がある際は職員と一緒に楽しんで頂くよう日々努めている。日常生活でのお手伝いも出来る方に合わせて手伝って頂き、気分転換取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様が希望される際は感染対策の旨伝えて、法事等で外出をして頂いている。買い物のお手伝いで近所に職員と出かけて頂いている。	入居者は、週に1回職員と近隣のスーパーへ買い物に出かけている。また、市内の公園へ花見に出かけたり、系列の施設と合同で食事会を開催したりと外出の機会も設け、支援している。今後は外食も検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員、家族が管理しており本人の希望があれば買い物支援等行っている。買い物した際は本人に金額を伝え、使える事の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、その都度対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに花を活け季節感を取入れ明るい雰囲気づくりをしている。	南側に面したリビングは日当たりが良く、清潔感もある。感染対策のため常時換気も行われている。テレビや職員の声の音量、入居者の席の配置等、様々なことに配慮し、居心地の良い空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを増やす事で共用空間での居場所を選んで使えるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や品を持参して頂き、家族と相談してレイアウトしている。	居室には、入居者が馴染みのものを持ち込むことができる。入居時に入居者、家族と話し合いながら配置を決められ、安全面にも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態を把握した上で支援を行っている。出来る事を奪ってしまわないよう心掛けている。		